



詳しい作業の様子は動画で公開しています

漆喰の作り方



1. 石灰とスサをつなぐ、つなぎとしての役割や漆喰を塗りやすくするため、海藻(銀杏草)を沸騰したお湯に入れ、ねばりのある海藻のりを漉していきます。



2. 塗上げ後の乾燥に伴う亀裂を防止するため南京切(麻をほぐしたもの)をほぐしながら入れていきます。

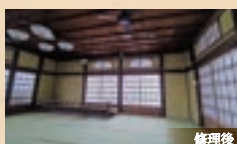


3. 亀裂を防止し、漆喰壁としての強度を出すため貝灰と消石灰を混ぜ合わせ、白く仕上げていきます。



4. 漆喰が完成しました。3時間かけてビニール袋2つ分の漆喰ができあがり、約5㎡ほど(畳約3枚分)塗ることができます。

左官壁



修理前



修理後



漆喰



荒壁



中塗



聚楽

道後温泉本館では解体工事の結果、漆喰の上から土壁を塗っていたことがわかりました。通常は土壁から塗るのですが、道後温泉本館独自の塗り方を残していくことも保存修理工事で大事なことであり、当時の塗り方に倣い塗って行きました。漆喰(下地)・荒壁・中塗・聚楽下地・聚楽で道後温泉本館の左官壁はできています。

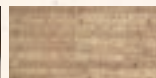
人がつなぐ 担当者の声【左官職人】

Q. 道後温泉の左官工事は?

A. 又新殿の壁は麻を巻いた土壁の下地など、左官の仕事をしていて体感したことのない仕事を経験できて、楽しさを持って仕事させていただいております。左官壁の層は何層も重なってできており、当時の職人の苦勞が感じ取れます。



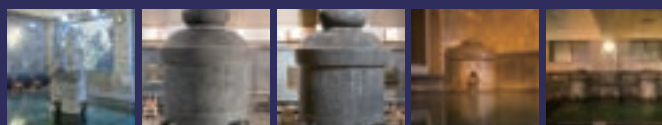
又新殿の土壁の下地



下地(接写)

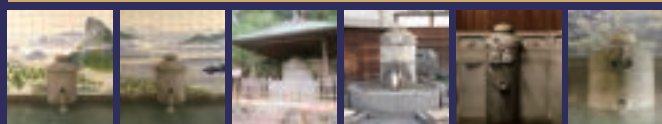


株式会社 濱崎組
左官職人 松岡 弘二さん



湯釜紹介

はじめは奈良時代から使用されていたと伝わる道後温泉の石製の湯釜は他の温泉地では見られない独特の趣があり、道後温泉の魅力の一つです。現存する13の湯釜について、歴史的価値などを紹介していきます。



第5回

神の湯 湯釜(西浴室)

正面に大國主命が宝珠を抱く像を彫ったこの湯釜(直径143cm、高さ280cm)は、昭和10年(1935)の神の湯浴室改築工事の時に「神の湯・女湯」の湯釜として設置されました。その後、昭和29年(1954)の養生湯の浴室改築時に「神の湯・男湯」として使用されるようになりました。今回の保存修理工事後は、70年振りに「神の湯・女湯」として再び使用されるようになります。湯口は左右に2カ所設けられており、湯釜には千家尊統の和歌が彫られています。現代ではこの湯口が付いた円柱の石材を湯釜と呼んでいますが、明治時代以前は湯壺と呼んでおり、いつから湯釜と呼び始めたのかわかりません。時代によって呼び方や使われ方が変わるのも長い歴史を持つ道後温泉だからかもしれません。



■補助事業名／(重文)道後温泉本館神の湯本館ほか7棟建造物保存修理事業
■補助事業費／国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金
■施工者／門屋組・成武建設・富士造型特定建設工事共同企業体 ■監理者／文化財建造物保存技術協会



道後温泉本館は、霊の湯で入浴できます。

※神の湯(男・女)、又新殿、2階・3階休憩室は休止しています。
※営業時間や入浴料など、詳しくは「道後温泉公式サイト」をご覧ください。

■お問い合わせ先 道後温泉事務所 TEL.089-921-5141
〒790-0842 松山市道後湯之町4番30号



[道後温泉公式サイト]
<https://dogo.jp>



重要文化財 道後温泉本館 保存修理工事

歴史をつなぐ
未来へのこす

愛媛県松山 道後温泉

道後温泉本館の紹介

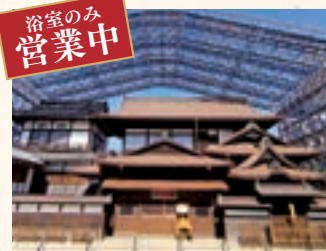
修理中



又新殿・霊の湯棟

明治32年(1899)竣工。
日本唯一の皇室専用浴室のある又新殿・霊の湯棟は、銅板葺及び檜皮葺の木造3階建て、正面(東面)に御成門があります。
(※1階で入浴できます)

浴室のみ
営業中



浴室のみ
営業中

修理中



玄関棟

大正13年(1924)竣工。
神の湯、霊の湯、養生湯の各浴室に入浴できるようにするため出札口として建設されました。
昭和10年(1935)の神の湯を曳家した時に現在の玄関棟としての役割に変わりました。

修理中



明治27年(1894)の改築以降、大正、昭和、平成、そして令和、時代とともに輝き続ける道後温泉本館。営業しながらの重要文化財の公衆浴場の保存修理工事は、日本初の取組です。

神の湯本館棟

明治27年(1894)竣工。
椋瓦及び銅板葺の木造3階建て、1階に浴場、2階・3階を休憩室とし、入母屋造の大屋根の上に塔屋を設けています。

南棟

大正13年(1924)竣工。
養生湯として建築され、神の湯本館と同じく、椋瓦及び銅板葺。修理前は、神の湯女子浴室として使用していました。
(※1階で入浴できます)

前期工事完了

平成31年1月15日から始まり、約2年6ヶ月を経て、道後温泉本館保存修理工事の前期工事は完了しました。特別に一部、修理の完了した様子をご紹介します。

又新殿・霊の湯棟



椋皮葺



1階 霊の湯男子浴室



2階 展示室

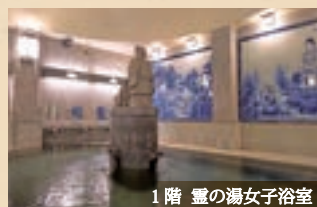


2階 御更衣室

南棟



椋皮葺



1階 霊の湯女子浴室



2階 霊の湯休憩室



3階 研修室

又新殿・霊の湯棟の銅板葺



修理前



銅板撤去



野地板部分修理



防水シート設置



人がつなぐ 担当者の声【板金職人】

Q. 又新殿の銅板の特徴は？

A. 修理前の又新殿の銅板はハゼと呼ばれる引掛かりの部分の小さいにも関わらず、ラインが通っていたことに驚き、当時の職人の丁寧な仕事を感じました。今回の保存修理工事では、今後雨漏りが起きないよう、銅板の銚(葺始め)の位置を修正したりするなど、水の流れに細心の注意を払い施工を行いました。



成岡板金有限会社
板金職人 成岡 健さん

完成

又新殿・霊の湯棟は昭和44年に銅板に葺替えられ、今回の工事で約50年振りの葺替えとなりました。防水性能を上げるため防水シートを設置し、新たに銅色の銅板を葺きました。保存修理工事(前期)では全体で約8,000枚の銅板を使用しました。



道後温泉本館
保存修理工事
スケジュール

平成30年度～令和6年度
(予定)

	平成30年度(2018)	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)
素屋根工事		組立	前期工事	移動	後期工事	解体	
神の湯本館棟	入口切替			内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立		
又新殿・霊の湯棟		内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立				
南棟		内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立	内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立		
玄関棟		内部解体調査		屋根解体調査	屋根葺替・内部組立		
事務所棟				内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立		
便所棟		解体	改築				
本館周辺整備		埋設物調査	塀復旧				石柵復旧

★現在 R3.7月時点

入口切替予定★

12月
未完了
予定